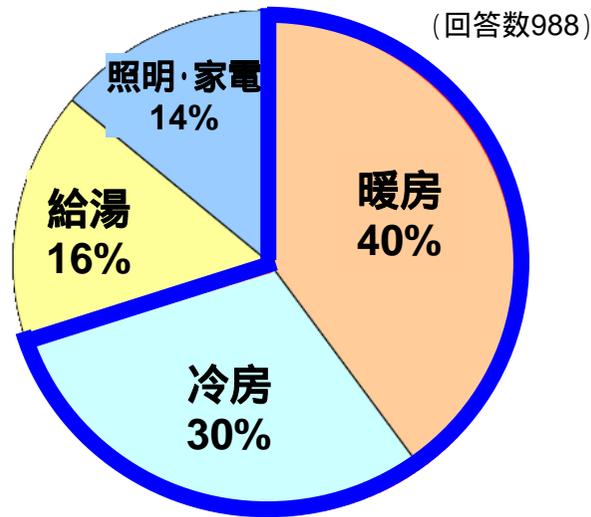


住宅のエネルギー消費におけるパーセプションギャップ

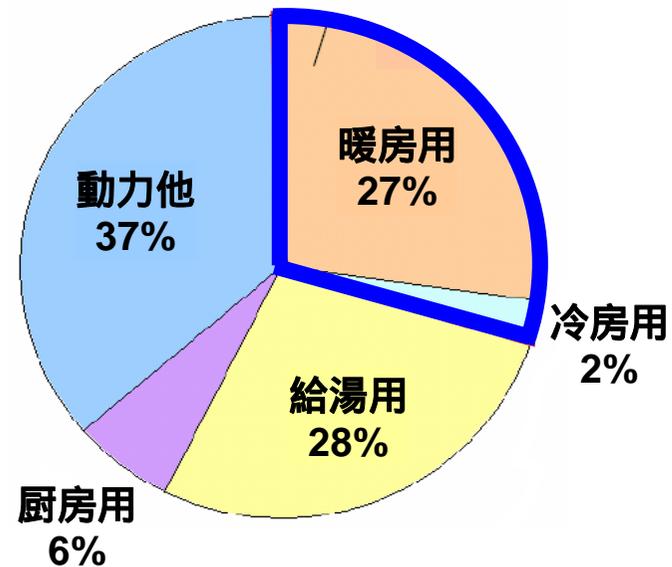
「どの用途の消費が一番大きいと思うか」
という問いに対する回答(東京) (意識)



〔%: その分野を最大用途であると指摘した人の割合〕

(出典: 日本建築学会, 住宅のエネルギー消費に関する調査研究委員会, 東京理科大 井上隆研究室)

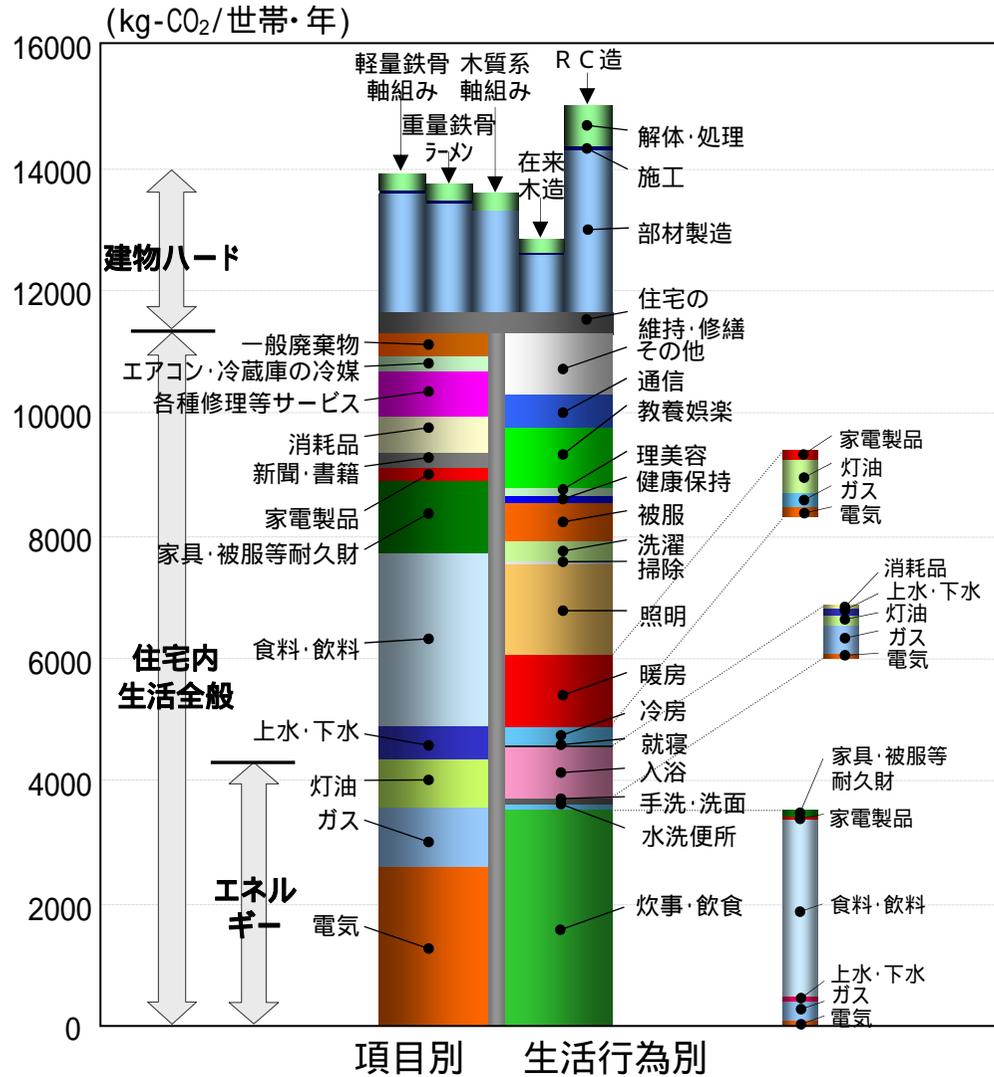
実態



〔%: 用途別エネルギー消費割合〕

(出典: エネルギー経済統計要覧)

住宅のLCCO₂の全体構造(戸建て)



(産業連関表と家計調査年報の項目)

- 注:
1. 住宅で発生するCO₂をエネルギーに換算すると約40GJ(年・世帯)
 2. マイカーを年間1万km使用し、燃費を10km/とすると、これは約40GJに相当

(出典:近田智也、井上隆「住宅に係る地球温暖化影響の全体像」、総合論文誌No.1、日本建築学会)

低炭素社会推進の枠組み

取組みの対象 取組みの 主体, 手順, 方策	エネルギー (需要, 供給)	ソーシャル・キャピタル (ハードとソフト ・集団としての市民, 地域文化 ・社会システム, 社会インフラ ・制度インフラ ・都市, 交通, 産業基盤 等)	ノンソーシャル・キャピタル (ハードとソフト ・個人としての市民, 家庭 ・ライフスタイル ・住宅, 一般建築, 企業 ・機器/設備/クルマ 等)	自然環境 (自然資本)	～ の 統合的 取組み
1. 取組みの主体 (対象 - 主体) (ステークホルダー) 1.1 政府・自治体 1.2 産業 1.3 民間 (市民, NPO・HGO) 1.4 学術コミュニティ 1.5 メディア					
2. 取組みの手順 (対象 - 手順) 2.1 CO ₂ 排出の現状評価と将来予測 マクロ的分析とミクロ的分析 2.2 各ステークホルダーの取組みの 現状把握 2.3 バリヤーは何か? 2.4 将来ビジョンの設定 2.5 バックキャスティングに基づく ロードマップの策定 2.6 フォローアップ					
3. 取組みの方策 (対象 - 方策) 3.1 基本的施策 規制 誘導・支援 情報発信・啓発 3.2 技術開発と適用 政策面 産業技術面 社会システム面 ライフスタイル/ ビジネススタイル面 3.3 ステークホルダーの インセンティブの刺激 3.4 バリヤーの除去 3.5 その他					